

Title	3年間を振り返ってみて感じること(第9回ピア・スーパービジョン)
Author(s)	奈良部, 清香
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.1, 2012.9 : 25-26
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=3985
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

3年間を振り返ってみて感じること 奈良部 清香

① 現在の職業とこの仕事を目指したきっかけ

この仕事に興味を持ったきっかけは、専門学校時代のクラスに「統合失調症」の方がいたことです。

優しくて気を遣ってくれる子だったのですが、時々、私の中での「常識」だと思っていたものとは違った言動があり、戸惑うことが多くありました。

初めは「臨床心理士になれば、この友人のこともっと理解できるようになるのでは？」と考え、大学に入学しましたが、授業をいくつか受けていく中で「生活の中での不便さや楽しさを、一緒に悩んでいける精神保健福祉士」の仕事に惹かれる

ようになり、資格を取得しました。

② 3年間を振り返ってみて

卒業後は、今とは違う施設に就職したのですが、社会人一年目の私は「理想10割：現実0」という状況でした。スタッフの対応ばかりが気にかかってしまい、「自分の対応はどうか」ということに目がいかなくなっていました。

半年ほどして、今の職場に転職させていただき、ただただ楽しく過ごしていました。

2年目は、少し「自分」に目が向けられるようになり、「メンバーさんとかかわり方」について悩むようになりました。

そして3年目の今、色々な話を聴き、経験をす中で「焦りと葛藤」でとても苦しんでいます。

例えば、グループホームの入居者の言動は、「施設の中だからこそ許される」ようなものが多く、「もっと地域の人とかかわりが必要なのでは!？」と強く感じていました。

そんな中、あるメンバーさんの親戚の子が発症してしまい、SOSの電話が施設に入りました。親御さんはずいぶん前から「おかしい言動」に気づいてはいたそうなのですが、誰にも相談できずにいたのです。その話を聞き、「何で、姉妹でもあるメンバーさんや、スタッフに相談できなかったのか？」と考えてしまいました。理由はとても複雑だとは思いますが、「その人（や他のメンバーさん）が、施設の中にしか居られない」ような、通院したり施設と繋がることでの「プラスのイメージ」が持てていなかったからなのではないか、と感じてしまったのです。そして、「もっと社会の中で役割を持つ機会を!」と、とても焦りを感じました。

「から回っているのかもしれない」という不安も多くありましたが、「本当にから回っているのだろうか!？ただ動いていないだけなのでは!？」という不安が、頭の中でグルグルしていました。

ある日、メンバーさんにも「こんなことが必要なのでは？」というような話をする機会があったのですが、その方に「確かに必要だと思います！頑張ってください！」と言われてしまいました。「一緒に頑張りましょう」という言葉を期待していたのですが、この言葉を聞いて「やっぱりから回っていたんだな。全然巻き込めていなかったのだな」と実感し、やっと冷静な気持ちになれました。

もうすぐ4年目となりますが、今年は相手のペースを感じとる努力をし、その速度に合わせながらもしっかり動いていくようにしたいと思います。

(ならべ・さやか 社会福祉法人ブローニユの森
地域活動支援センター「アークスフォース」精神保健福祉士、2008年度聖学院大学人間福祉学科卒業)